

グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	台湾		
校内発表会	8月28日		(対象)	全校・学年	
学校名	静岡県立清水南高等学校	氏名	大場 百華	学年	2

1 目的・応募理由

私が今回高校生海外インターンシップに応募したのは、私自身が将来についてまだ詳細なビジョンを決めていないからこそ、実際の就労現場を直接拝見することで仕事や就労についての視野を広げることができ、本事業が自分の未来の選択肢を広げる機会になると考えたからです。今回の受け入れ先企業であるヤマハ発動機株式会社はオートバイを中心に事業を展開する輸送品機器メーカーであり、エンジン部品をはじめとする高度な技術を持ち、JAXAの研究する航空機用のモーターの開発・提供実績もあります。航空宇宙産業に関心がある私は、そうした分野との業務提携を行う企業で実際に働いている方々の姿を見ることで、自分の興味関心をどのような形で自らの将来に落とし込むかを考える一つのきっかけになると確信します。

また、将来海外で働きたいという個人的な希望もあるため、「海外で働くとはどういうことなのか」といった根本的な定義や意義を肌で体感する機会にもなると考えます。高校生のうちに異文化でものを学ぶという体験は、私の人生の中でも非常に意味を持つ経験となることと思います。

2 研修内容等

今回のインターンシップは、国内研修と海外研修の二つの研修から構成されました。国内研修では、ヤマハ発動機株式会社の国内本社にて事業説明を受け、本社および工場の見学を行いました。また、台湾やタイに駐在経験のある社員の方から現地での経験や仕事内容について説明をいただき、グローバルな働き方への理解を深めることができました。ヤマハ発動機コミュニケーションセンターを見学する機会もいただき、ヤマハ発動機の歴史や製品展示をみて、企業の活躍の幅を一層理解することができました。

海外研修一日目には、台湾の現地工場の見学や、台湾の販売拠点への訪問を通じて、バイク文化の根付く海外市場での事業展開の実態を学びました。さらに、現地で活躍する駐在員の方との交流会では、海外勤務における実務面や生活面の具体的な話を伺い、グローバルに働く姿を身近に感じることができました。駐在員の方々の挑戦的な生き方、明るい考え方も強く影響を受けました。

加えて、海外研修二日目の台北市内研修では、龍山寺や中正紀念堂、九份を訪れ、台湾の歴史や文化に直接触れる体験をしました。特に龍山寺では、伝統的な神社の参拝方法・御籤の引き方を実際に体験して、日本との文化の違いを痛感しました。

さらに、二日間を通して台湾料理や北京料理を存分に堪能し、円卓料理の文化を通



じて現地理解を深める貴重な機会となりました。

3 感想等

今回のインターンシップを通じて、私は企業のグローバル展開の実態と、日本とは言語も常識も異なる地域の中で働くことの難しさや面白さを学ぶことができました。

国内研修では、静岡県内にあるヤマハ発動機株式会社の日本本社を訪問し、ランドモビリティに限らない幅広い事業展開や社員一人ひとりの新たな挑戦を後押しする温かい社風に触れました。特に、ヤマハ発動機の美意識には強く心を打たれました。オートバイを単に乗り物として扱うのではなく一つの芸術作品として扱い、細かなキズ一つないようバイクの外観や塗装のツヤに徹底したこだわりを持っていると言います。こうした意識や、出荷前に厳重に製品チェックを行う姿勢はまさに「感動創造企業」だからこそだと感じました。こうした企業特有の文化や工場の雰囲気に触れたことで、静岡のものづくりにおける価値観の拡大を実感しました。

海外研修では、台湾の工場や販売拠点の訪問、日本とは異なる市場環境の中で働かれる駐在員の方々のお話から、多くのことを学びました。高速で高品質な製品の生産体制や、従業員が一層働きやすくなる環境整備の工夫などを目の当たりにし、グローバル市場で活躍し続ける企業の努力を理解しました。駐在員の方々に教えていただいた言語の壁を乗り越えるためのコミュニケーションの工夫や、「できない理由を考えるより、どうすればできるか」というポジティブな思考法は、私の今後の人生で大きな財産になると確信しています。また、日本とは全く違う台湾のバイク文化を肌で感じ、グローバルに事業を展開する上で、その土地の文化や現地の人々のニーズを深く観察し、理解することの重要性を学びました。



また、台北市内研修では、龍山寺や中正紀念堂、九份といった歴史的で文化的な名所を訪れ、台湾の伝統や文化に直接触れることができました。龍山寺では信仰が生活の中に根付いている様子を体感し、台湾の歴史を象徴する中正紀念堂の美しい建築にも圧倒されました。九份の町並みには日本統治時代の面影を感じる和の雰囲気が漂っていました。加えて、台湾料理や北京料理を味わうことができたことも忘れられない思い出です。食文化はその土地の人々の暮らしが反映されやすいため、台湾現地の方々の生活や価値観をよく体感できたと思います。

今回のインターンシップ全体を通じて、私は挑戦することの大切さを学びました。実際、本事業へ応募するという「挑戦」をしたからこそ、研修のご縁をいただき大いなる学びと自身の成長につなげることができたため、挑戦により未来が大きく変わることを身をもって体感しております。本インターンシップに参加できたことは本当に幸運なことでした。トライ&エラーを繰り返し、何事も諦めずにやり遂げる姿勢こそが、自分の成長や未来につながるのだと思います。今回の経験を糧に今後も自分の興味を突き詰めて学び続け、将来は多様な価値観や背景を持つ人々と協働し、日本と世界をつなぐ存在になりたいと強く感じています。

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	台湾		
校内発表会	12月18日		(対象)	学年	
学校名	静岡県立掛川工業高等学校	氏名	鈴木 大翔	学年	2

1 目的・応募理由

私は将来海外で働きたいと考えています。その際外国の人とコミュニケーションをとることは必須です。そのため、この海外インターンシップに参加し経験を積みたいと考えたのが応募のきっかけです。またこのインターンシップには、県内の行動力のある人が集まる場所であるため、そのような人達と関係を持てるチャンスをつかみたいと思ったというのも参加した理由の一つです。他にも、実際に会社で働いている方にお話を聞ける機会は貴重なため、このようなチャンスを逃したくないと思いました。研修するにあたって、しっかり話を聞いて自分の成長につなげようと意気込んで研修に参加しました。

2 研修内容等

この海外インターンシップでは全部で三回の研修がありました。

一回目の事前研修ではこの事業が行われる意義や、日本経済の現状からこれから求められる人材などについて話を聞きました。そこでは、チャレンジ精神があり積極的な人材がこれから必要とされていくことを知りました。また、一緒に研修に行く仲間と自己紹介などの交流をして仲を深め、台湾に代表として向かうという心構えをつくることができました。他にも日本と海外の文化の違いや、注意点などを旅行会社の方に教えていただきました。

二回目は国内研修を行いました。ヤマハ発動機会社と工場を訪問させていただきました。海外駐在経験のある社員の方のお話を聞く機会があり、駐在中の生活の様子や海外の社員の方とコミュニケーションをとるコツなどについて知ることができました。また、工場見学をした際には、業務効率化の仕組みや福利厚生の手厚さを実感させられました。具体的には、製品を運ぶのがすべてロボットであったことや、社員一人一人にエアコンがついていたことなどです。また子供のうちからヤマハを好きになってもらい大人になった時大きな買い物をしてもらうために子供用の乗り物を作っているということを教えていただきました。このように長期の目線で物事を考えることが売り上げを伸ばすことに繋がっているのだと実感しました。



三回目の研修では、台湾のヤマハ発動機を訪問させていただいて駐在員さんや社長さんのお話を聞いたり、工場見学をしたりしました。工場見学で特に印象に残っているのは社長の言葉で、自分より年齢が大きい人のアドバイスは聞いたほうが良いというものです。親や先生に叱ってもらう時ただ頭にくるなど思うのではなく、冷

静になって聞き入れてみていると、ほとんどが大人になった時あの人が言っていたことは正しかったなと思うそうです。自分もそのような経験があったので、叱ってくれる人を大切にしてお話を吸収していきたいなと思いました。

また細かい作業が求められる場所には、女性社員を起用するなどして、女性の活躍できる職場づくりを行っているとわかりました。全ての業務が、さらなる利益のために合理的に組み立てられていることがよくわかり、改めて日本のものづくりのすごさを感じました。夜は市場に買い物に行ったり、台湾の料理を食べたりして現地の方とコミュニケーションを取りながら異国の文化に触れることができました。

3 感想等

今回の台湾でのインターンシップを通じて、文化の違いを肌で感じることができました。車でなくバイクを持つ人が多くて信号のところにバイクがたまる場所があったり、水道水が飲めなかったり、自販機が外に無かったりなど、日本にいるときは当たり前だと思っていたことが海外だと普通でないこともあると実感しました。特に水道水が飲める日本は本当に恵まれているとわかったので、当たり前を当たり前だと思わず色々なことに感謝して生きていきたいです。

また私は今回のインターンシップに参加してチャレンジする力がついたと考えています。今までの私はこのような活動に参加するような人間ではなかったのですが、成長する為に参加に踏み切ったからです。台湾では外国の人と英語で話す機会がたくさんありました。今まで勉強してきたものを実際に使い、会話できたことがうれしかったです。

しかし、学校で学んだものと実際話すのとは大きな違いがあり、うまく話せないこともありました。まだまだうまく話せないことを実感したので、これからもっと英語の勉強を頑張り、高校卒業までに英検準一級を取得したいです。

また、社長さんや社員さんなど、たくさんの方から勉強になる話を聞くことができました。特に、「自分から行動を起こせる人がどんどん成長するし昇進する」という言葉には感銘を受けました。受け身で過ごしていても進歩はなく停滞しているだけで、結局は自分から動かないと変わらないということを学びました。これからの生活では様々なことにチャレンジして、もっと主体的な行動が出来る人になりたいです。他にもヤマハ発動機の職場はとても雰囲気良くみんなが楽しそうに仕事をしていました。自分も将来そのような良い雰囲気の会社に入るために勉強をもっと頑張らなければいけないなと感じました。ヤマハ発動機の社員の方々のようなカッコいい大人になるために、今回のかけがえのない経験をこれからの生活に生かしていきたいと思います。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	台湾		
校内発表会	12月19日		(対象)	全校・学年	
学校名	静岡県立磐田西高等学校	氏名	太田 海斗	学年	2

1 目的・応募理由

現在多くの日本企業は日本国内にとどまらず海外に生産拠点を置き、諸外国と取引をしています。今後、私が働くときのために海外の生産現場の様子や海外の文化や価値観について知りたいと思ったのが応募した理由です。

私は海外に行くのが初めてなので、日本と関わりが深く、教育や生活様式、食文化などが似ている台湾、そして地元磐田市に本社があるヤマハ発動機株式会社に行きたいと決めました。

2 研修内容等

国内研修

<従業員の方のお話から>

- ・ヤマハ発動機は売上の9割が海外であり、それは180を超える国での販売によるものだとことを知りました。ヤマハ発動機は他の会社に比べて他国の現地での長期滞在者が多く、そこもこのような売上の状況をもたらしている要因であるということがわかりました。
- ・ヤマハ発動機では乗り物だけでなく浄水装置や産業用ロボット、車椅子等の商品を作っていることを知りました。浄水装置はアフリカ向けに作っているようで、SDGsにも配慮をされていて感激しました。

<工場見学>

- ・産業用ロボットは組み立て工場の自動化にも使われていて、無人搬送機という機械が組み立て工場の中で動き回り、荷物の自動運転をされていて驚きました。
- ・組み立て工場の中には1日社員1本無料という自動販売機が設置されており今の日本の暑さを考慮し、社員のことを思っていると感じました。



海外研修

8月5日

<従業員の方のお話から>

- ・仕事で心がけてほしいこととして、①常にポジティブ思考でいること ②コミュニケーション能力を高めること の2点が挙げられた。ポジティブ思考でいることで職場全体の士気の向上にもつながり、失敗を恐れずたくさんの方に挑戦できるようになるそうです。そして、コミュニケーション能力を高めることは海外での外国人との会話の時に不可欠で、他の人と打ち解けることができると会社全体の生産性の向上につながると伺い、とても大事なことだと感じました。

- ・高卒で入社した人でも 10 人に 1 人は海外で働いていることに驚きました。そして、日本人と台湾の人では考え方に違いがあるようで、例えば指示を出す際にやったことにどのようなことがおこるかといった説明が必要であるなど、海外で働くことの大変さを知りました。
- ・学生時代にやっておいたほうが良いことは「視野を広げる」ということで、たくさん本を読んだり映画を見たりすることで様々な感情を抱くことが大切だということを教えていただきました。

<工場見学>

- ・日本と違ってあまり自動化されておらず、手作業で行っていることが多かったです。
- ・帽子につけるバッチによって、初心者なのか、ある程度熟練した者なのかが一目で分かるようになっていました。初心者の方が分からないことを聞きやすいようにとの配慮が手厚く、働きやすさにつながっていると感じました。

8月6日

<台湾支部の方のお話から>

- ・台湾では日本の文化が親しまれており、特にアニメの文化はとても親しまれていて街中の至る所に日本のアニメのイラストが貼られていたり、夜市では日本の商品が売られていたりしていて、日本文化が愛されているんだなと感じました。
- ・台湾の経済は順調に成長しており、2024年に台湾が日本を上回ったことを聞いて、危機感を感じました
- ・日本の商品は台湾ではやはり人気で、ドン・キホーテは日本では激安の殿堂とされているが、台湾では高級スーパーとして利用されていると聞きました。日本の高品質のイメージはまだ続いているということを知って安心しました。

3 感想等

海外インターンシップに応募したものの、最初はとても不安でした。しかし、他校の新たな仲間たちと出会うことができ、充実して学ぶことができました。多様な価値観や文化に触れ、自分の視野がとても広がっていくことを感じました。

台湾では、言語が通じないために戸惑うことがあり、そのたびにコミュニケーションの必要性和難しさを感じました。これまで私は、周りの人とコミュニケーションがとれる方だと思っていましたが、今回の経験を通じてコミュニケーション能力をもっと磨く必要があるということ、身をもって感じました。

ヤマハ発動機はグローバルな企業であり、高卒で就職しても海外へ転勤する可能性があることを知りました。以前は自分が海外で働くことなど想像できませんでした。今回の経験から、外国の方々のそれぞれの国民性を理解した上でコミュニケーションを図っていくこと、またポジティブな思考をもつことなど、必要なことを学ぶことができました。今後の高校生活では積極的にさまざまなことに挑戦し、英語などの語学力を身につけるなど、将来のためにしっかりと準備しようと思いました。今回、海外インターンシップにチャレンジして、本当に良かったです。ありがとうございました。

グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	台湾		
校内発表会	未定		(対象)	全校・学年	
学校名	静岡県立浜松東高等学校	氏名	真砂 侑依	学年	2

1 目的・応募理由

私が応募した理由は2つあります。

1つ目は、もともと海外の文化や仕事に興味があり、この海外インターンシップを通して実際に現地で仕事を体験することで、自分の視野を広げたいと思ったからです。

2つ目は、二年生に進級して将来について考えるようになり、様々な価値観や環境に触れる経験が自分の成長につながると思ったからです。

2 研修内容等

《国内研修》

- ・ヤマハ発動機株式会社についての説明
- ・駐在を経験された方のお話
- ・ヤマハ発動機株式会社の工場見学
- ・コミュニケーションプラザの見学
- ・取り組みについての動画視聴

《海外研修》

- ・YMT（台湾の工場）の見学
- ・YAMAHA の駐在員の方のお話
- ・YAMAHA のバイク販売店訪問
- ・質疑応答
- ・県駐在員事務所訪問
- ・県駐在員の方のお話
- ・静岡と台湾についてや取り組みについてなど



3 感想

私は今回のインターンシップでとても大きな経験をしました。YAMAHA についてはもちろん、海外で働くことの実際の声や様子を体感し、働くこと自体への価値観や大切なことを学びました。国ごとの規則やニーズを的確にとらえた製品づくりを行っていることを知りました。製品設計だけでなく、梱包まで輸出する現地の事を考慮して対応しているという話は、YAMAHA のグローバル企業ならではの配慮と工夫を感じました。国内と台湾の工場を見学し、機械化・自動化が国を問わず進んでいると感じました。以前までは手作業で行っていたことも機械が自動で作業するようになり、工場の中で作業をする方の負担を軽減していることを知りました。その影響により今後は、「機械を操作、管理できる人材」が求められるという話を聞き、時代や環境にあったスキルを身に着ける事が大切だと思いました。台湾のホテルでエントランスで話す必要があったときに、台湾の言葉をしゃべることが出来なくて困りました。それでも英語でコミュニケーションをとることができ、言語の壁は想像以上に高いと思いました。本当に伝わっているのか、この表現で合っているのか。少し話すだけでもとても緊張し、不安もありました。ジェスチャーも自然と出てきて、日本ではなかなか経験できない貴重な機会だと思いました。トイレの使い方や、食事のマナー、日本人の癖など当たり前だと思っていたことが日本の文化であり、むしろ日本の文化の方が特徴的である事も気づき、日本についても少し詳しくなりました。仇分を散策していた時に、日本語で話しかけられコミュニケーションをとったことがとても驚きました。日本語は日本でしか話されていないと思い込んでいました。しかし、他のお店でも日本語で話しかけられ、わからないことがあれば日本語で優しく教えてもらいました。日本語を勉強し話せる方や日本に対して強い関心を持っている方がこんなにもいて、言語の壁は高くてもそれを乗り越えようと努力する人が沢山いると気づきました。言葉が通じるだけで、心の距離がぐっと縮まって、日本人同士と話すこととはまた違った新たな感覚を味わいました。自分自身も日本語だけにとどまらず、多言語や異文化への理解や学習に力を入れたいと思いました。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	台湾		
校内発表会	12月19日		(対象)	全校・学年	
学校名	静岡県立浜松商業高等学校	氏名	山崎 りん	学年	2

1 目的・応募理由

私が台湾での海外インターンシップに応募した理由は、実際に海外の職場を体験しながら、自分の視野を広げたいと思ったからです。日本と地理的にも文化的にもつながりの深い台湾での体験は、国際理解を身近に感じる大切なきっかけになると思いました。

目的としては、まず現地の人々との交流を通して、言語だけでなく価値観や考え方の違いを体感することです。台湾の人々はフレンドリーで人との距離が近いと聞いており、その中で自分がどのようにコミュニケーションを取れるのか挑戦したいです。

さらに、将来の進路を考えるうえで「海外で働くことが自分に合っているのか」を知りたいという思いもあります。

2 研修内容等

今回の研修は、国内研修と海外研修の二本立てで実施されました。国内研修では、磐田市にあるヤマハ発動機本社を訪問し、実際に働く社員の方から会社の歴史や製品の特徴、企業が世界展開するうえで大切にしている姿勢について説明をいただきました。また、将来社会に出るうえで必要となる力や心構えについて質問する機会もあり、自分の進路を考える上で大変参考になりました。



海外研修では、台湾にあるヤマハ発動機を見学しました。現地の社員の方からは、日本と台湾での業務の違いや、それぞれの役割分担について具体的にお話を伺うことができました。その後、専用車で販売店の見学にも向かい、店舗の方からは製品を販売する際の工夫や顧客対応へのこだわりを直接聞くことができました。商業を

学ぶ立場として、実際の現場の工夫に触れることは大きな学びとなりました。さらに、台湾県駐在員事務所を訪問し、台湾の地理的な特徴や経済的な役割、歴史的背景についても理解を深めました。午後には台北市内での研修を行い、日本との文化の違いを直接体感することができ、国際的な視野を広げる貴重な経験となりました。

3 感想等

今回、私たち高校生グループは台湾でのインターンシップに参加し、現地の企業や人々との交流を通して多くのことを学びました。特に強く感じたのは、将来必要となる力として、英語で自分の考えを伝える力の重要性です。授業で学んできた英語でも、実際の場面で使うとなると緊張や戸惑いがあり、言葉を選びながら相手に理解してもらう難しさを実感しました。一方で、積極的に話すことで相手も熱心に耳を傾けてくれ、言葉以上に「伝えようとする姿勢」が大切だと学びました。ヤマハ発動機の社員さんとの交流の際にも、国内外を問わず共通して「将来に必要なのはやはり英語だ」とおっしゃっていたことがその考えの裏付けとして確固たるものになりました。その言葉を受け、自分自身も将来に向けて英語力を磨き、国際的な場面で活躍できる人材になりたいと思いました。

また、自分の意見を持つことと、他人の意見を尊重することの両立が必要だと気づきました。グループ活動の中では考え方が異なる場面もありましたが、全員の意見を出し合い、最終的に折り合いをつけることで、より良い結果につながることを体験しました。これは、将来どのような環境で働くにしても欠かせない力だと思います。

今回のインターンシップで得た経験は、単なる語学力の向上にとどまらず、国際的な場で必要とされる姿勢や人間関係の築き方を学ぶ貴重な機会となりました。今後はこの経験を活かし、将来の進路や学びに積極的に取り組んでいきたいです。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	台湾		
校内発表会	12月3日		(対象)	全校・学年	
学校名	静岡県立浜名高等学校	氏名	井田 深月	学年	2

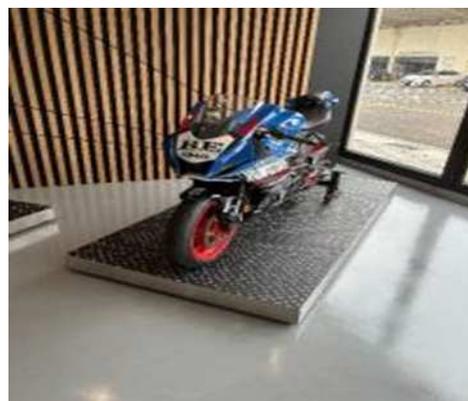
1 目的・応募理由

実際に現地で働いている人にお会いして、日本の企業が海外にどれほど結びついているのか話を聞いてみたかったからです。また、実際に日本と外国の文化の違いや価値観、現地の空気や雰囲気を肌で感じてみたかったからです。また、5年前にインドネシアに父の仕事の都合で2年間滞在していて、将来は外国に在住したいと思っていたので、自分の経験になると思い参加しました。

2 研修内容等

台湾山葉機車工業の新竹地区を訪れ、製造や販売、営業などを見学しました。また、海外駐在者に実際にお会いし、事前に送った質問に答えて下さいました。

そして静岡県と台湾を繋いでいる事務所に伺って私たちの地域と台湾がどのように繋がっているのかを知りました。そして、市内研修も行いました。



3 感想等

初日に台湾について外の景色を見た時に感じたことはバイク、バスの多さです。日本では車の幅区間がしっかりあってそこに車が縦に並んでいてその合間合間にバスやバイクがあるという印象でしたが、台湾ではバイクが道路の8割を占めていてその次にバスが多くあり、車も一定数あるのですが、圧倒的なバイクの多さに驚きました。

また信号機や音響信号機も日本と違っていて、外国に来た感覚のようなものが研ぎ澄まされました。

夕食では、絶対に食べきれないだろうと思うような量が来て、自分は食べ切る事ができなかったのですが、中国のマナーで少し残して食べる事は食べきれないほど食べさせてくれてありがとう、という感謝の気持ちがある事を知り、文化の違いを感じま



した。

2日目の1日研修では台湾がどれほどバイクを使っているかを知る事ができました。至る所にバイクの販売店があり、常にお客さんがいたのでヤマハ発動機やSYM、三陽工業などの企業のおかげで台湾の交通が成り立っている事を知れました。

また、移動中に日本の食事処(大戸屋、コメダ珈琲店、はま寿司・・・)などがさまざまなお店にあるのを見て、日本と台湾の結びつきがどれほど強いのか実際に感じる事ができました。

3日目は市内研修だったのですが、よく台湾人が日本語で自分たちに話しかけてくださり、にこやかに説明されているのを聞いて、日本に興味を持ってくれる人がいっぱいいる事を実感しました。お茶の美味しい淹れ方の説明をしてくれた方は、にこやかに流暢な日本語を話していて、なぜか嬉しく感じた事を覚えています。

また、研修先でも日本語で話しかけてくれる人がいたり、日本を思い出すような商品があったり、回っていて文化が違う部分、共通している部分を知る事ができました。

今回ヤマハ発動機さんにお邪魔してインターンシップを受けたのですが、自分にとって本当に貴重な経験になりました。旅行で外国に行くことはできるけど、実際に企業に訪れたり、販売所の詳しい説明を聞いたりすることは、この機会じゃなければできなかったと思います。私はずっと大学進学を希望していて、それ以外の選択肢はあまり受け付けていなかったのですが、この研修を機に就職して働くという新しい選択肢も生まれました。

自分の見聞がここまで広がったのはこの研修があったおかげです。今回学んだ事をしっかり学校に持ち帰り、他の人にも広げ、自分たちの地域には海外に誇れる企業があるという事を他の人に伝えたいと思います。



グローバル人材育成事業報告書

参加したプログラム	高校生海外インターンシップ	訪問国	台湾		
校内発表会	3月10日		(対象)	全校・学年	
学校名	星陵高等学校	氏名	藤村 凌空叶	学年	2

1 目的・応募理由

私は、将来工学系の職業に就きたいと思っており、大学では工学部を目指しています。今回の研修で機械の製造にかかわる業務や販売店見学を通して、自分にはどのような知識やスキルが必要かを知り、多くの学びを得たいと思ったので応募しました。また、将来海外で働きたいと以前から考えていたことも、応募した理由の一つです。面識のない人と海外に行つてともに行動することはとてもハードルが高いと思っていましたが、自分の中で変化を望み、自身の成長を促す絶好の機会であると思い、本インターンシッププログラムに応募しました。

2 研修内容等

初めにこの研修全体の説明をしてくださった後に、各グループ別の自己紹介を担当職員の方も交えて行いました。今後の研修の流れを、日程や持ち物、服装等を踏まえてグループ別で昼食後に説明してくださいました。また全体での説明では、各グループの海外の行先別にクイズを交えて旅行会社 HIS さんが説明してくださいました。コミュニケーションプラザで海外研修の当日も行動を共にする浜松城北高校の生徒と先生と会いました。具体的にはヤマハ発動機株式会社とヤマハ株式会社の違いや実際に海外に駐在していた方が現地での生活などを説明してくださいました。その後、実際に工場に行き、製造している様子を見学させていただきました。当日は真夏日となっていたにも関わらず、工場内は涼しくてとても驚きました。この海外研修を経て海外での経験はもちろん、国内でも多くの貴重な経験をすることができました。羽田空港第3ターミナルには一人で向かい、集合後、チェックインと保安検査を済ませました。台湾に到着後は現地ガイドと合流しバスで移動して、夕食は台湾料理を堪能しました。その後夜市を訪れ、日本とは異なる文化を肌で感じました。新竹のヤマハの工場見学では、偶然にもその場にいた台湾支社の社長の話を聞き、その後現地の店舗で販売と修理の現場を学びました。社長の「ポジティブシンキング」や「チャレンジ思考」



社長の「ポジティブシンキング」や「チャレンジ思考」

という言葉から、柔軟で前向きな姿勢の重要性を学びました。三日目には、大使館のような施設で台湾と日本の関係性について学んだ後、龍山寺という台湾最古の寺院で台湾独自の参拝方法やおみくじ文化に触れました。その後、中正紀念堂を訪れ、昼食後には九份を訪れました。少し大きめのお土産屋でお茶の体験を通して台湾文化を深く味わいました。現地での体験や仲間との交流を通じて、安心と興奮が入り混じった充実した研修となりました。日本と台湾の違いや共通点を実感し、異文化理解を深める貴重な機会となりました。台湾は一年の半分以上の日が雨であると聞いていたのですが、研修中はその覚悟を持っていましたが、一日目の夜に小雨が降ったくらいで、それ以外はずっと晴れか曇りで、とても天気にも恵まれた4日間でした。



3 感想等

ヤマハ発動機株式会社について、この研修では働いている人にしかわからないようなことまでたくさん知ることができました。国内研修での工場見学の際に、お金を入れるところがない自動販売機を工場の中で見つけました。案内してくださっていた方によると、この暑い夏に熱中症にならないように一人一本無料でもらうことができるものと伺いました。労働環境の改善を常に考えているからこそその施策だと実感しました。また特に海外研修では、事前に国内研修得た知識たちとは少し違った見方で工場見学をできました。バイクの塗装のように繊細な作業には女性の方が多く携わっていました。それは意図的にそうしているとおっしゃっていました。このように国内海外問わず、雇用形態にも力を入れているとおっしゃっていました。台湾の道路にはバイク専用の停車スペースが道路の先端にありました。そこにはヤマハ製のバイクが何台もありました。台湾の人々の生活インフラを支え、社会貢献する姿は、自分がこれから目指すものだとし示してくれているような気がしました。海外で働くとはどのようなことか実態を知れたので、将来に向けて今までとは少し違った勉強をこれからしていこうと思いました。また、異なる分野の人との交流、新しい環境への挑戦、そして異文化理解という貴重な経験を得ることができました。初めての海外での研修という不安を乗り越えた今、自信と達成感をもって次のステップに進めると感じています。